

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

ドル/円相場のトレード戦略

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み 110 円台を回復する動きとなっています。

9月のFOMCでは予想通り政策金利の引き上げを実施し、12月の利上げを含め2019年末までに残り4回の利上げが期待される内容となり、ドル/円は底堅い動きが予想されます。

もともと、米国を中心とした貿易摩擦の激化はドルの上昇抑制要因であり、この点を考慮すると年末に向けてもレンジ相場が継続するものと考えられますが、レンジの上限が115円程度にとどまるのか、これを抜けて118円が視野に入ってくるのかが焦点となるでしょう。

■短期展望

先週はドル堅調の流れが続きました。

週初からリスク選好の雰囲気が高まり、昨年11月以来となる114円台を回復しました。

その後、イタリア財政問題への懸念からユーロ/円が急落したことを受けドル/円も113円半ばまで押し戻されましたが、予想を上回る米経済指標や原油先物相場の続伸などを受け米10年債利回りが2011年以来となる水準まで急伸し、ドルも114円55銭の高値を付けました。

週末には、米長期金利上昇を嫌気した株式市場の下落や予想を下回った米非農業部門雇用者数などを受け114円を割り込んだものの、113円後半の水準を維持して週を越えています。

今週は、週初にポジション調整的なドル売りが先行し、一時113円を割り込む動きで始まっています。

しかし、113円割れでは本邦勢の押し目買い意欲も強く、米国経済の堅調さやそれを受けた金利先高観は継続され、ドルの底堅い動きは維持されるものと思われます。

したがって、今週は112円台での押し目買い優先がメインの戦略となりそうです。

ただ、ドルの上値を買い上がっていくムードにもなく、114円水準からは円ショート of 利食いが優勢となる可能性が高いでしょう。

予想レンジ：112円50銭～114円50銭